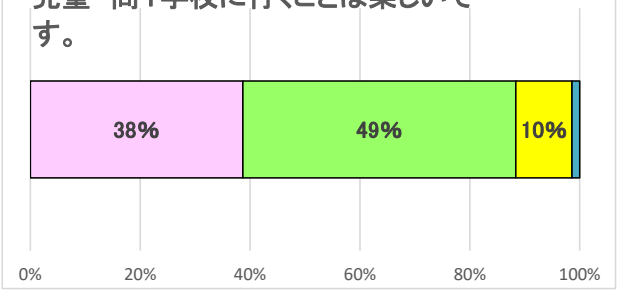
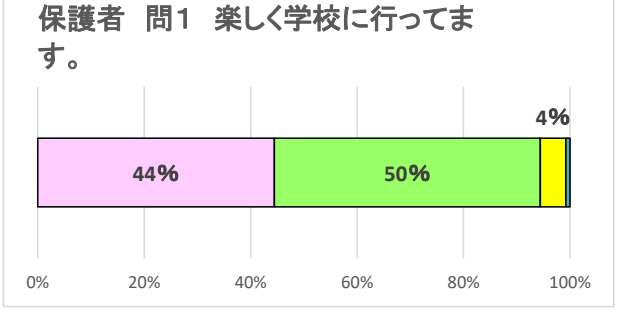
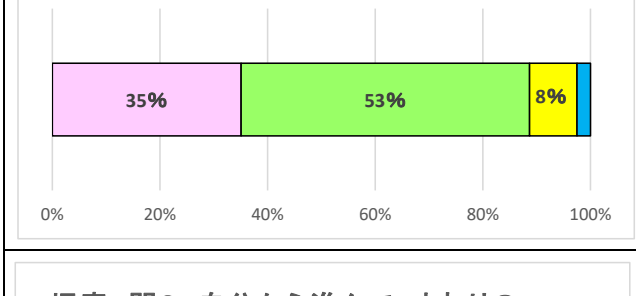
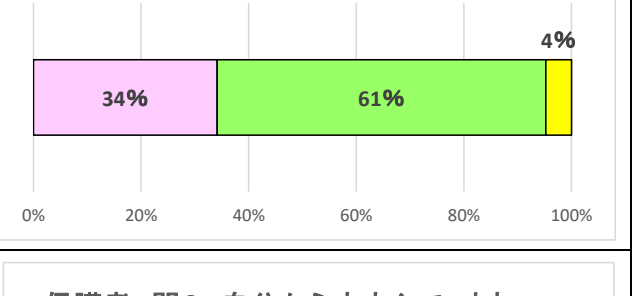
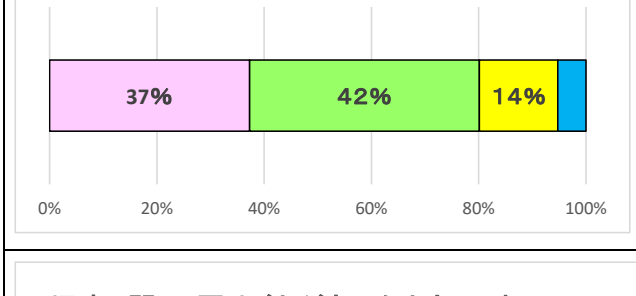
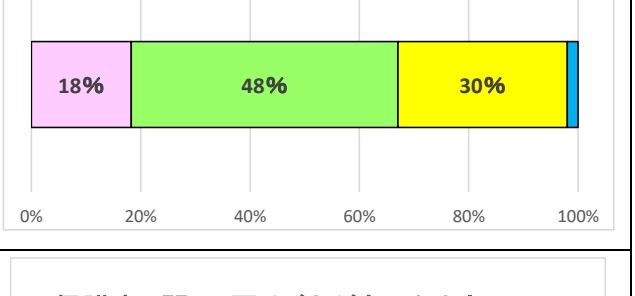
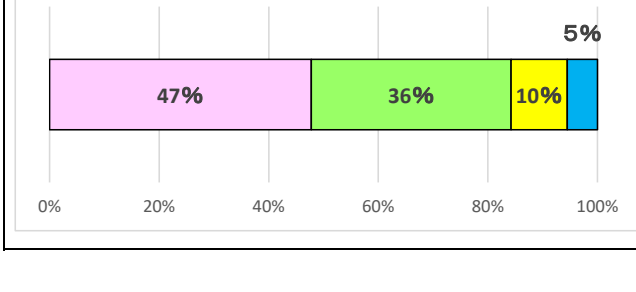
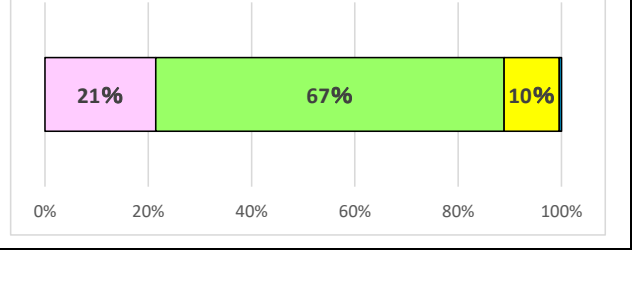
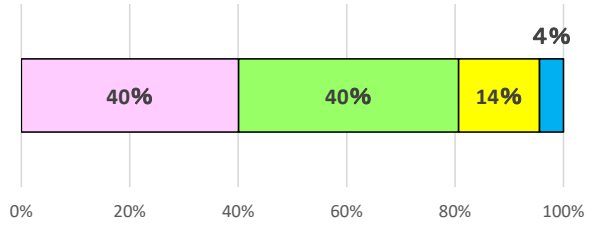
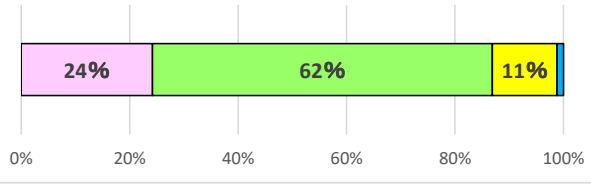
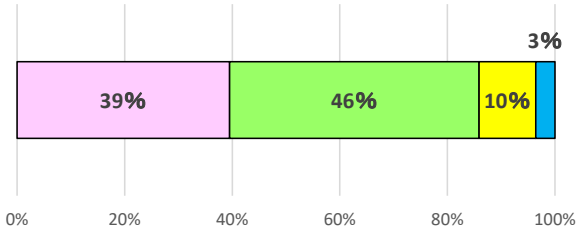
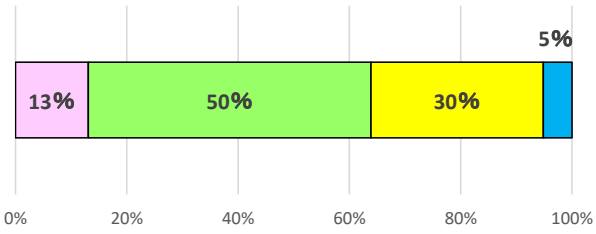
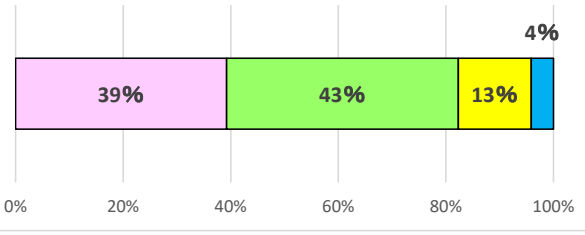
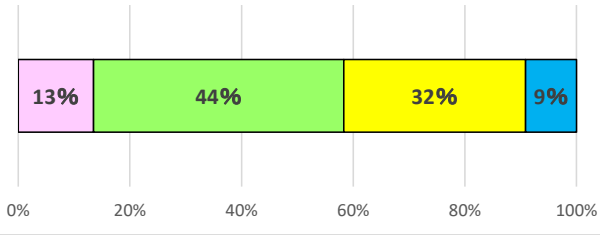
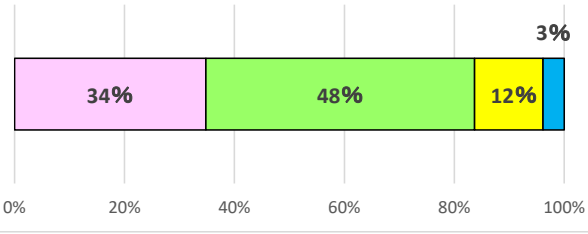
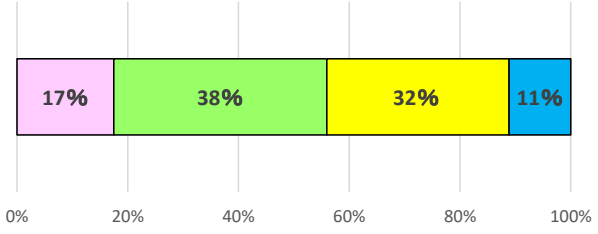
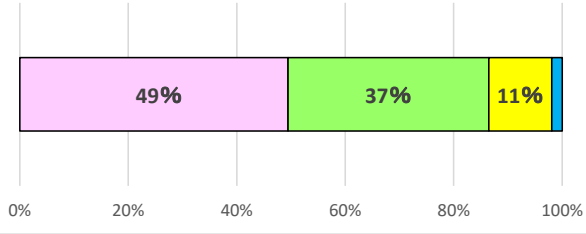
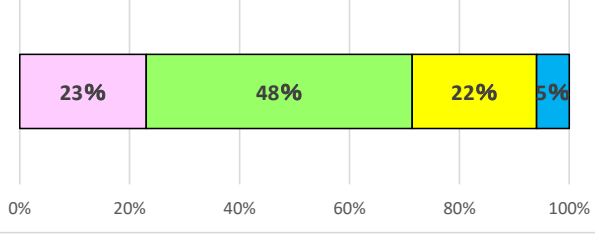
令和５年度　篠原小学校　学校生活アンケートの集計結果について

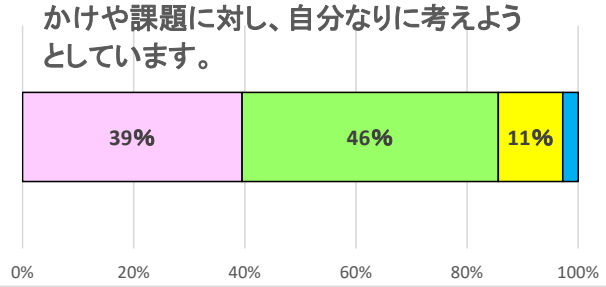
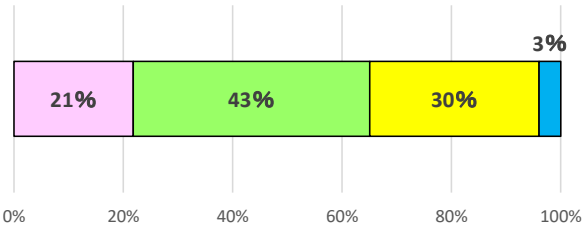
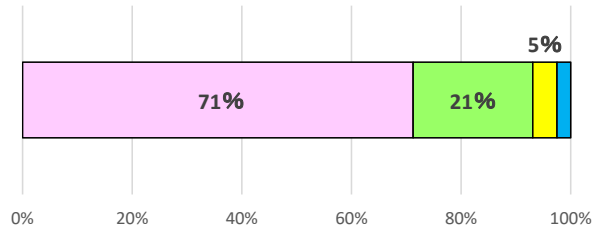
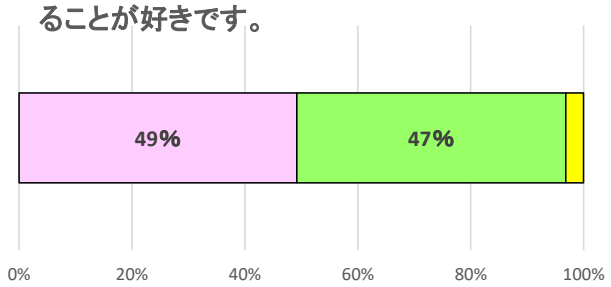
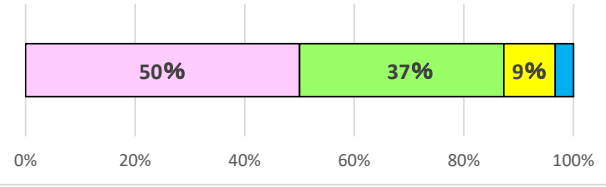
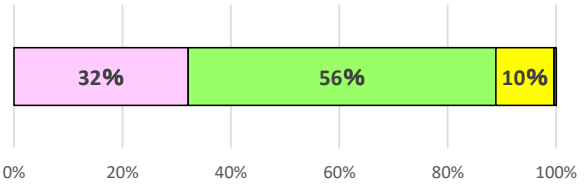
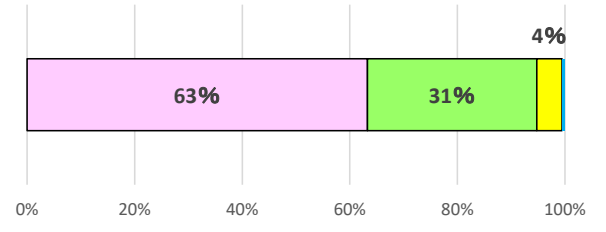
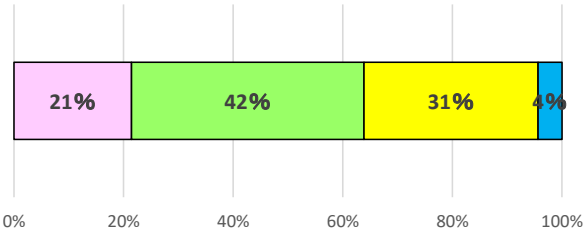
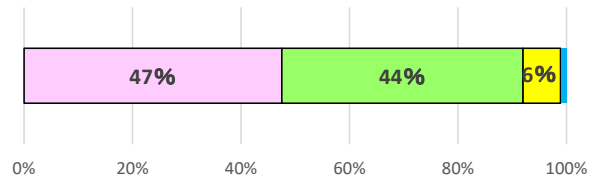
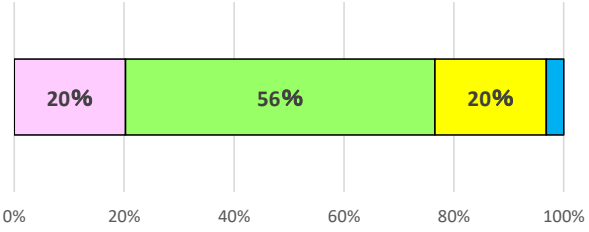
春日井市立篠原小学校

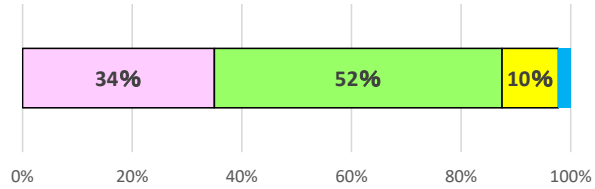
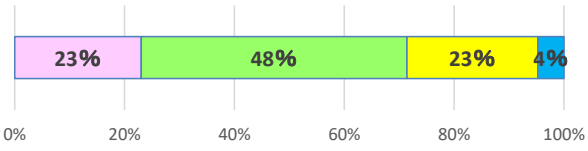
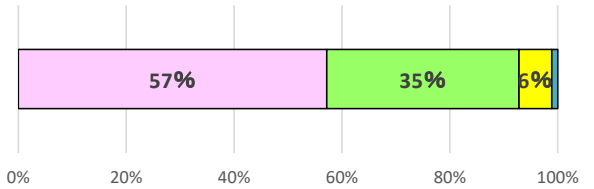
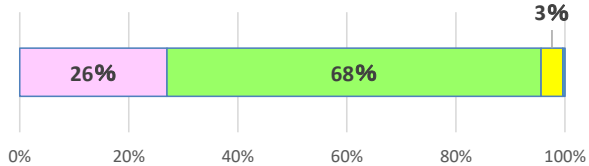
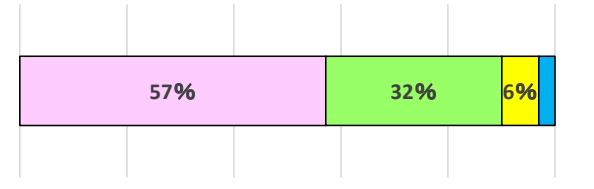
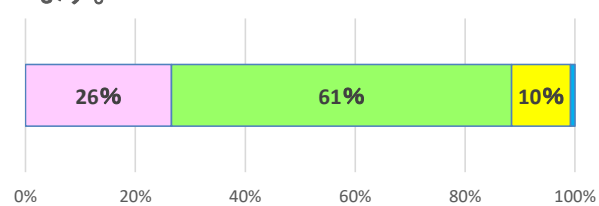
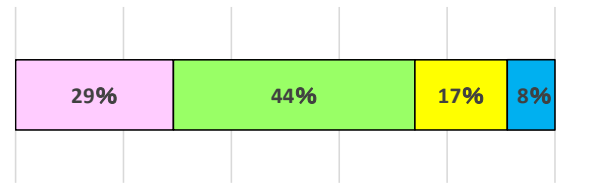
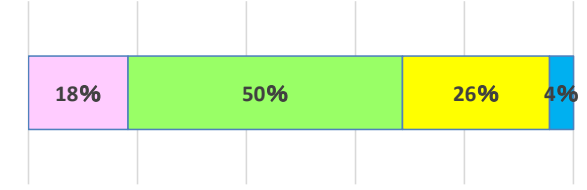
児童や保護者の皆様を対象に、１月に実施した学校生活についてアンケートの集計をまとめましたので、主な項目についてお知らせします。アンケートへのご協力、ありがとうございました。

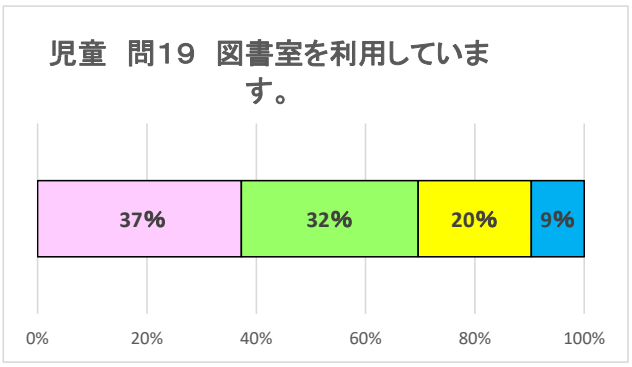
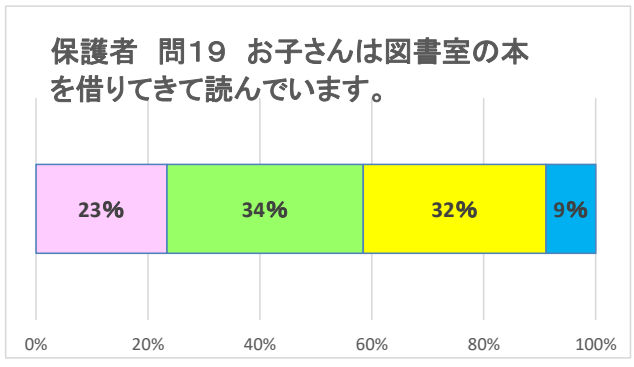
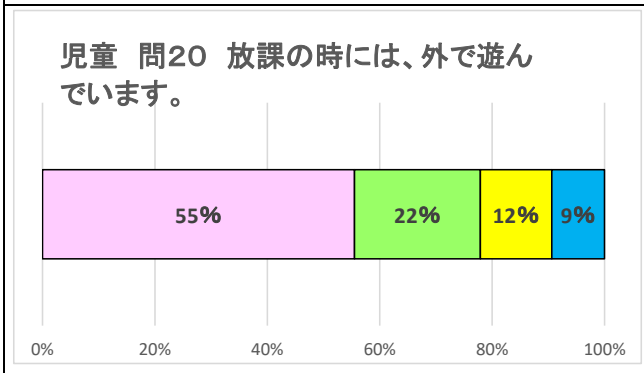
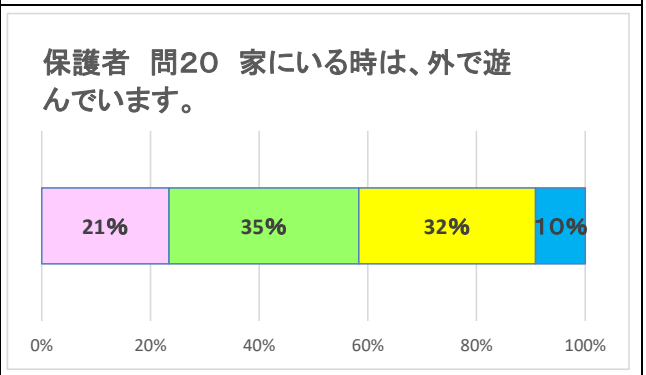
左から「よく思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」

児童	保護者
児童　問１学校に行くことは楽しいです。 	保護者　問１　楽しく学校に行ってます。 
児童　問２　友達にやさしくしたり、困っている子を助けたりします。 	保護者　問２　人にやさしくしたり、困っている人を助けたりします。 
児童　問３　自分から進んで、まわりの人にあいさつします。 	保護者　問３　自分からすすんで、まわりの人にあいさつします。 
児童　問４　困りごとがあったときに、相談できる人がいます。 	保護者　問４　困りごとがあったときに、相談できる人がいます。 

児童	保護者
児童　問5　クラスは、思いやりのあるあたたかな雰囲気があります。 	保護者　問5　クラスは、思いやりのある、あたたかな雰囲気づくりに努めています。 
児童　問6　授業がよくわかり、楽しく勉強しています。 	保護者　問6　授業がよくわかり、勉強が楽しいと話しています。 
児童　問7　授業中には、すすんで勉強に取り組んでいます。 	保護者　問7　すすんで勉強に取り組む姿勢が身に付いています。 
児童　問8　授業中、学習端末を進んで学習に活用しています。 	保護者　問8　学習端末をすすんで家での学習に活用しています。 
児童　問9　毎日の家庭学習や宿題を真剣に取り組んでいます。 	保護者　問9　毎日の家庭学習や宿題を真剣に取り組んでいます。 

児童	保護者
児童　問10　授業の中で、先生の問いかけや課題に対し、自分なりに考えようとしています。 	保護者　問10　自分の考えをすすんで発表します。 
児童　問11　友達といっしょに活動することが好きです。 	保護者　問11　友達といっしょに活動することが好きです。 
児童　問12　学校生活で「よく努力した」「がんばった」と思えることがあります。 	保護者　問12　学校生活の中で「よく努力した」「がんばった」と思えることがあります。 
児童　問13　係や当番（日直、掃除、給食）などの仕事をきちんとします。 	保護者　問13　家庭での仕事（お手伝い）をきちんとします。 
児童　問14　勉強や集まりのときなど、先生や友達の話をきちんと聞いています。 	保護者　問14　保護者の話をきちんと聞いています。 

児童	保護者
児童　問15　生活や勉強のことで、やろうと決めたことや、やらなくてはいけないことについて、いつも努力しています。 	保護者　問15　生活や勉強のことで、やろうと決めたことや、やらなくてはいけないことについて、いつも努力しています。 
児童　問16　教室や運動場、体育館などの学校施設は、安全で、きれいに、使いやすいように整備されています。 	保護者　問16　教室や運動場、体育館などの学校施設は、あんぜんで、きれいに、使いやすいように整備されています。 
児童　問17　病気やけがをしないように、気をつけて生活しています。 	保護者　問17　お子さんは病気やけがをしないように、気をつけて生活しています。 
児童　問18　学校・学年からのおたよりを、しっかり読んでいます。 	保護者　問18　学校・学年からのおたよりを、しっかり読んでいます。 

児童	保護者
	
	

児童と保護者の共通設問数を増やし、両者の意識をより多面的・多角的に見ることができるようにしています。また、本校の定める本年度の重点努力目標に基づいた問いを設け、学校運営方針の状況を分析することができるようにしています。

○問１から５までは「生徒指導の充実」に関する設問です。「学校生活は楽しい」と捉えている児童が９割弱います。また、友達を含めた周りの人へのとの関わり方についても、「すすんであいさつをします」「困っている子を助けます」と９割弱の児童が捉えていることから、本校の重点努力目標の一つとして取り組んできたことが推進できていると考えられます。

○問６から１０までは「確かな学力の育成」に関する設問です。問７の授業へすすんで取り組むことに関して、「よく思う」「思う」と捉えた人の割合が児童では８割以上を占め、保護者では６割ですが昨年度より１割増加していることから、少しずつ家庭学習が定着していることが見て取れます。また、設問８については学習端末の家庭での活用は６割弱程度にとどまっていることから、ドリル学習等による基礎的な学力の定着を図りながら、今後も家庭での効果的な活用が課題であると言えます。

○問１１から１５までは「人間性豊かな児童の育成」に関する設問です。問１３の係や当番活動、家庭での手伝いに関する設問では、９割程度の児童が「よく思う」「思う」と捉えているのに対し、保護者は６割程度にとどまっています。児童の満足度と保護者の期待度の差が見て取れます。

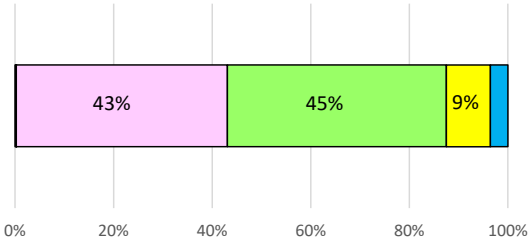
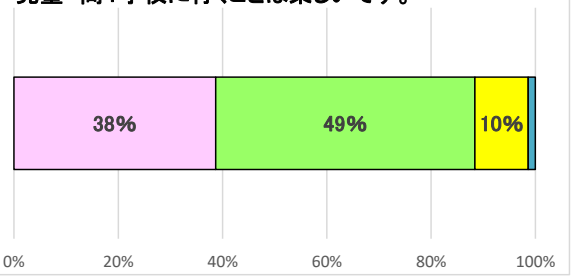
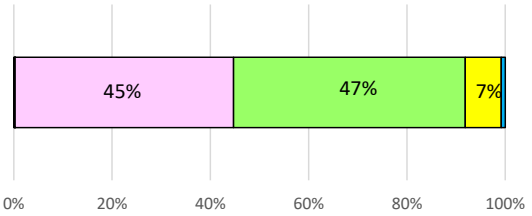
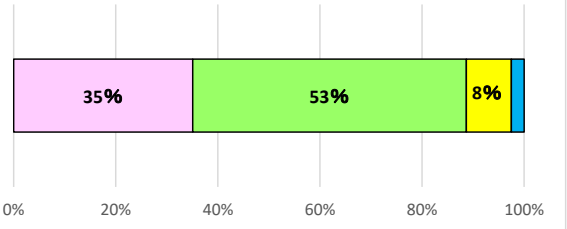
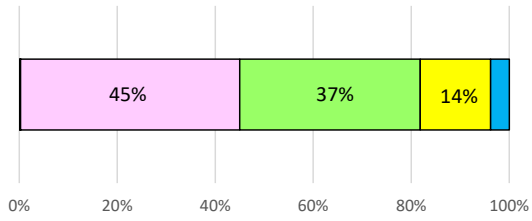
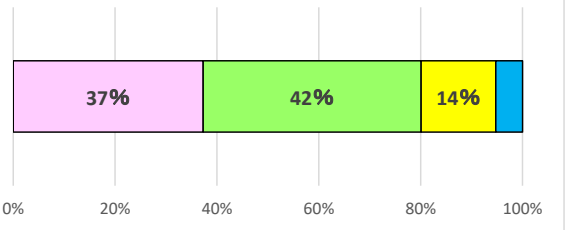
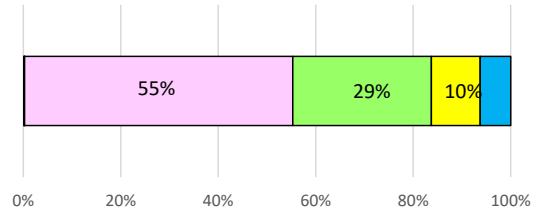
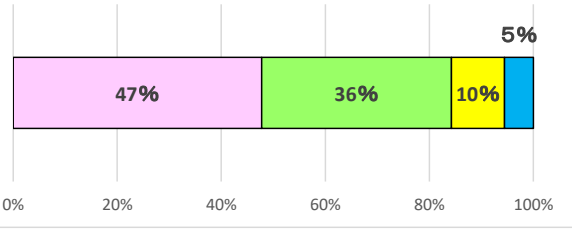
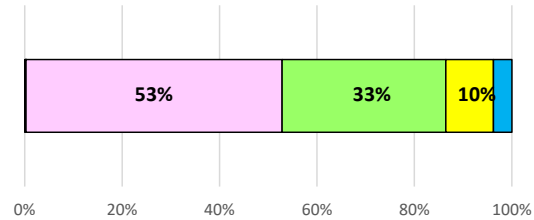
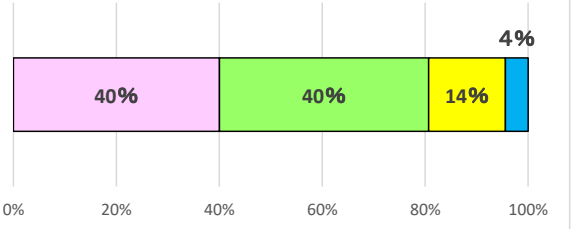
○問１６から２０までは「健康・安全教育の充実」に関する設問です。安全面や健康面で、児童も保護者も９割以上が気をつけて生活していると答えています。問１９の図書室の利用について、昨年度と同様に児童・保護者ともに６割弱となっています。引き続き学校と家庭が連携して、読書活動の充実に努めていく必要があると考えます。

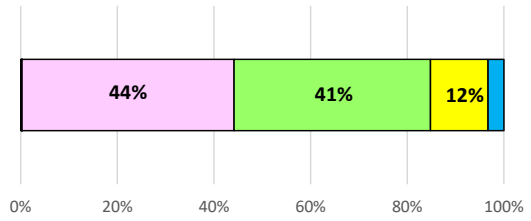
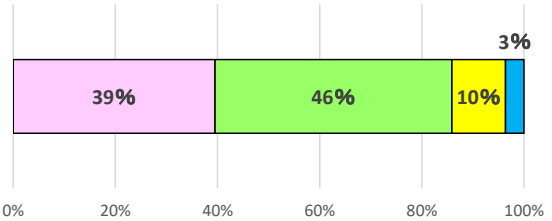
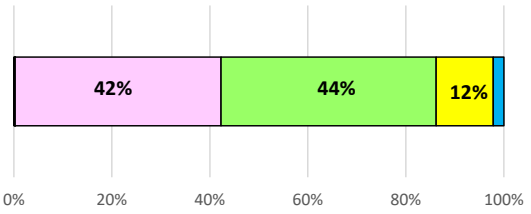
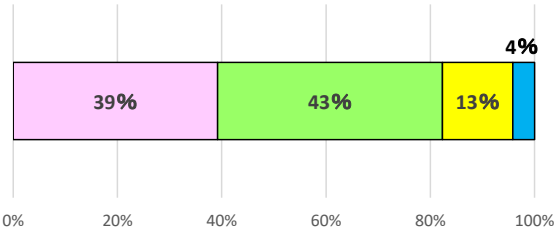
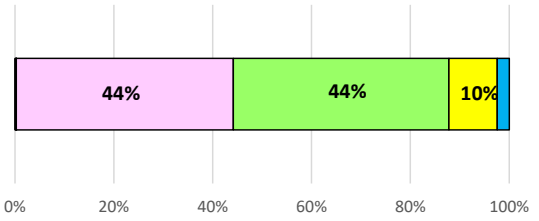
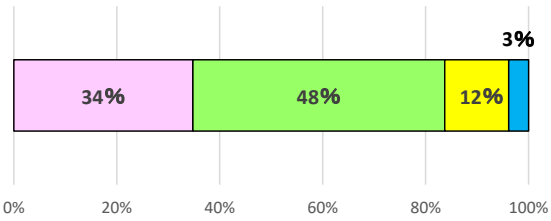
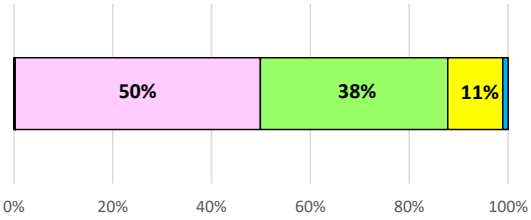
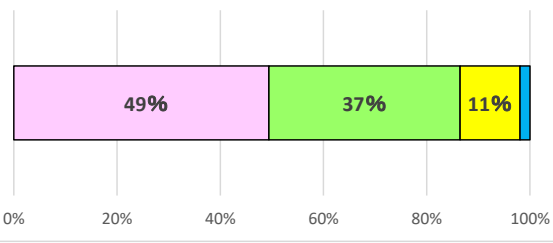
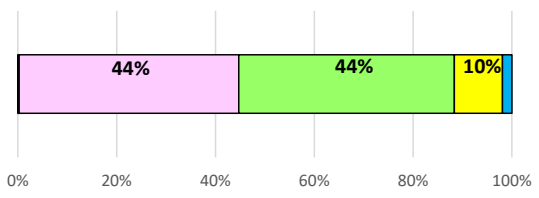
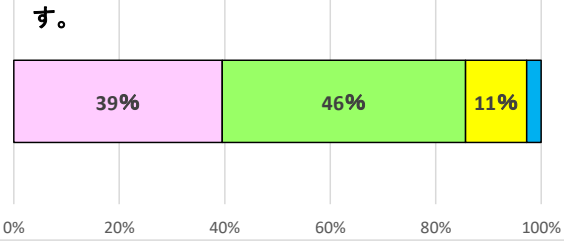
今回の集計結果を、来年度の指導に生かしていきたいと思います。今後も保護者の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

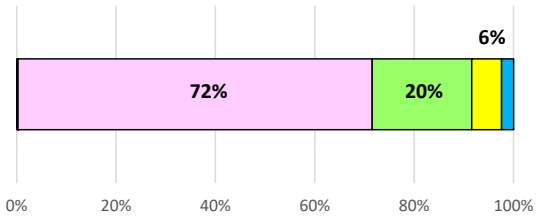
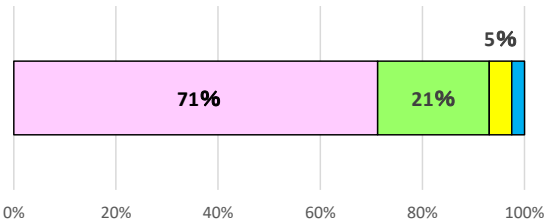
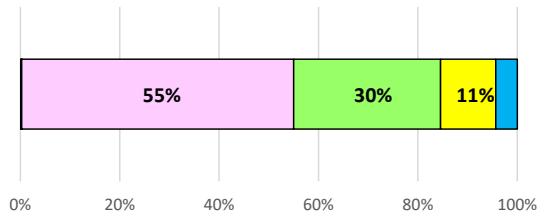
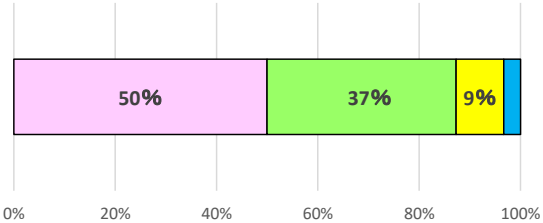
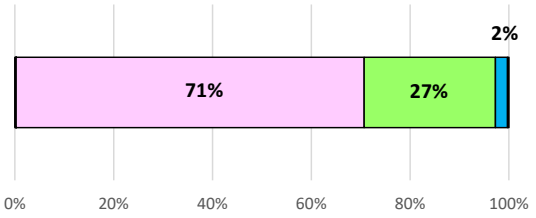
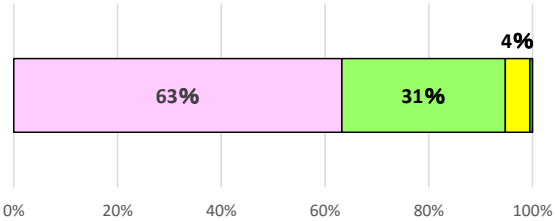
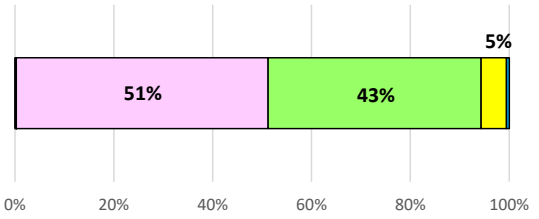
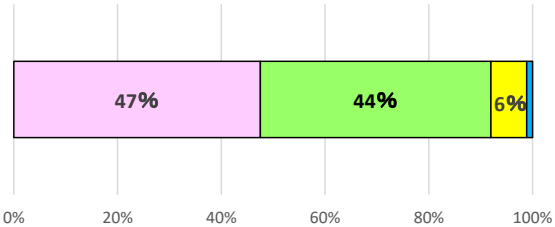
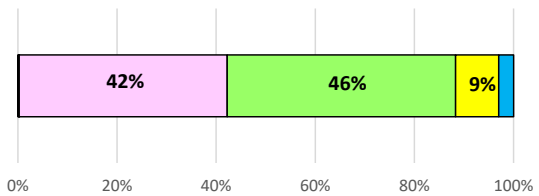
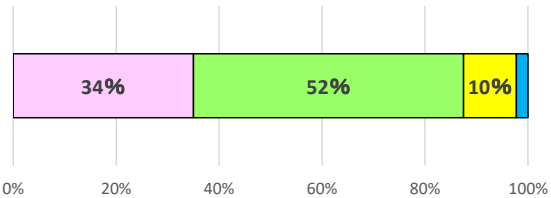
令和５年度　学校生活アンケートの集計結果について（児童令和４年と５年の比較）

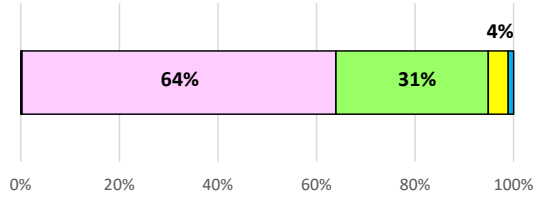
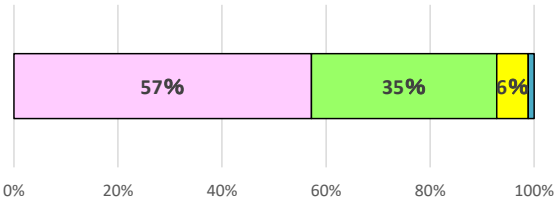
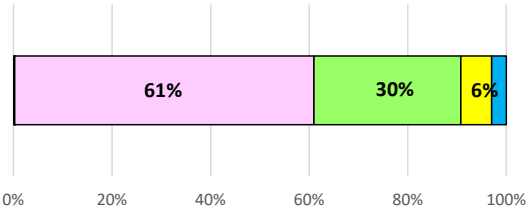
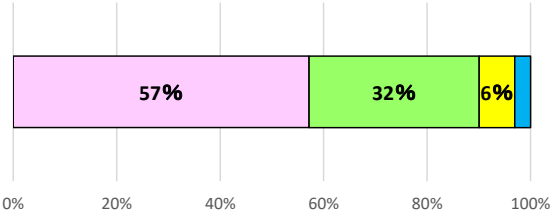
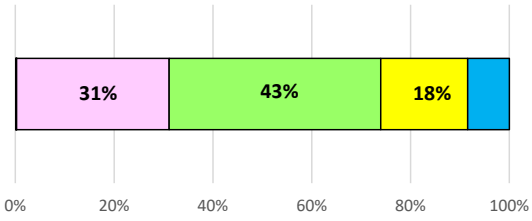
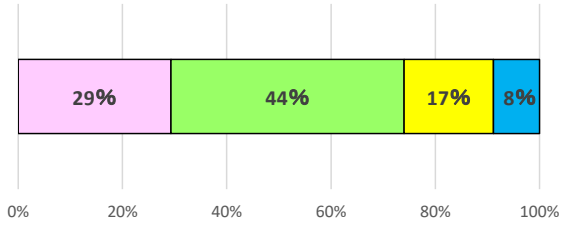
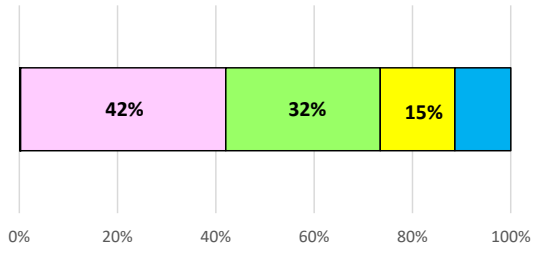
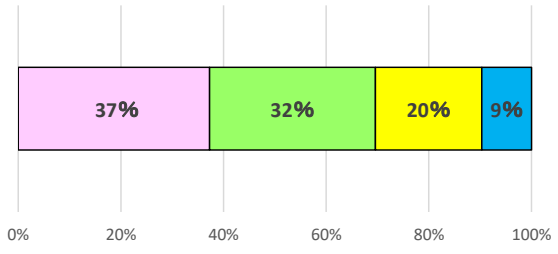
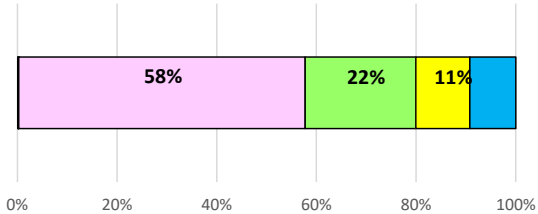
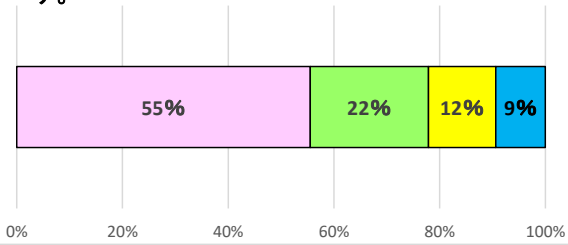
春日井市立篠原小学校

左から「よく思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」

令和4年度　児童アンケート結果	令和5年度　児童アンケート結果
児童　問1　学校に行くことは楽しいです。 	児童　問1学校に行くことは楽しいです。 
児童　問2　友達にやさしくしたり、困っている子を助けたりします。 	児童　問2　友達にやさしくしたり、困っている子を助けたりします。 
児童　問3　自分からすすんで、まわりの人にあいさつをします。 	児童　問3　自分から進んで、まわりの人にあいさつします。 
児童　問4　困りごとがあった時に、相談できる人がいます。 	児童　問4　困りごとがあったときに、相談できる人がいます。 
児童　問5　クラスは、思いやりのある、あたたかな雰囲気があります。 	児童　問5　クラスは、思いやりのあるあたたかな雰囲気があります。 

令和4年度　児童アンケート結果	令和5年度　児童アンケート結果
児童　問6　授業がよくわかり、楽しく勉強しています。 	児童　問6　授業がよくわかり、楽しく勉強しています。 
児童　問7　授業中には、すすんで勉強に取り組んでいます。 	児童　問7　授業中には、すすんで勉強に取り組んでいます。 
児童　問8　授業中、学習端末をすすんで学習に活用しています。 	児童　問8　授業中、学習端末を進んで学習に活用しています。 
児童　問9　毎日の家庭学習や宿題を真剣に取り組んでいます。 	児童　問9　毎日の家庭学習や宿題を真剣に取り組んでいます。 
児童　問10　授業の中で、先生の問いかけや課題に対し、自分なりに考えようとしています。 	児童　問10　授業の中で、先生の問いかけや課題に対し、自分なりに考えようとしています。 

令和4年度　児童アンケート結果	令和5年度　児童アンケート結果
児童　問11　友達といっしょに活動することが好きです。 	児童　問11　友達といっしょに活動することが好きです。 
児童　問12　学校生活の中で「よく努力した」「がんばった」と思えることがあります。 	児童　問12　学校生活で「よく努力した」「がんばった」と思えることがあります。 
児童　問13　係や当番（日直、掃除、給食）などの仕事をきちんとします。 	児童　問13　係や当番（日直、掃除、給食）などの仕事をきちんとします。 
児童　問14　勉強や集まりの時など、先生や友だちの話をきちんと聞いています。 	児童　問14　勉強や集まりのときなど、先生や友達の話をきちんと聞いています。 
児童　問15　生活や勉強のことで、やろうと決めたことや、やらなくてはいけないことについて、いつも努力しています。 	児童　問15　生活や勉強のことで、やろうと決めたことや、やらなくてはいけないことについて、いつも努力しています。 

令和4年度　児童アンケート結果	令和5年度　児童アンケート結果
児童　問16　教室や運動場、体育館などの学校施設は、安全で、きれいに、使いやすいように整備されています。 	児童　問16　教室や運動場、体育館などの学校施設は、安全で、きれいに、使いやすいように整備されています。 
児童　問17　病気やけがをしないように、気をつけて生活しています。 	児童　問17　病気やけがをしないように、気をつけて生活しています。 
児童　問18　学校・学年からのおたよりを、しっかり読んでいます。 	児童　問18　学校・学年からのおたよりを、しっかり読んでいます。 
児童　問19　図書室を利用しています。 	児童　問19　図書室を利用しています。 
児童　問20　放課の時には外で遊んでいます。 	児童　問20　放課の時には、外で遊んでいます。 

【令和４年と５年の比較考察】

○令和４年度に続き、令和５年度も「学校生活は楽しい」「困った時に相談できる人がいる」「クラスの雰囲気は温かい」と捉えている児童が８割を超えています。一方で、「クラスは、思いやりのある、あたたかな雰囲気があります」の項目では、「よく思う」「思う」と捉えた児童が昨年度より６％減少していることから、すべての教育活動を通して、本校の重点努力目標の一つである、心のつながりを大切にした学級経営を教職員一丸となって今後も目指していきます。

○確かな学力の育成に関する設問では、昨年度と同様に８割を超える児童が「よく思う」「思う」と答え、学習に対し前向きに取り組んでいることがわかります。一方で、問８の授業中での学習端末の積極的な活用については、昨年度より「よく思う」「思う」と捉えた児童が６％減少しました。新学習指導要領に沿った授業改善を図りながら、個々の学びの充実に向けた活用の仕方が今後の課題と言えます。

○人間性豊かな児童の育成に関する設問では、８割を超える児童が「よく思う」「思う」と捉えています。特に、日頃の当番活動や人の話をきちんと聞くなどの基本的な生活規律について、９割以上の児童ができたと捉えています。また、問１２の「学校生活の中でよく努力した、がんばったと思えることがある」については、２．７％増加していることから、学校生活の中で、様々な交流活動や体験活動を通して児童自身が達成感を得ることができたと言えます。

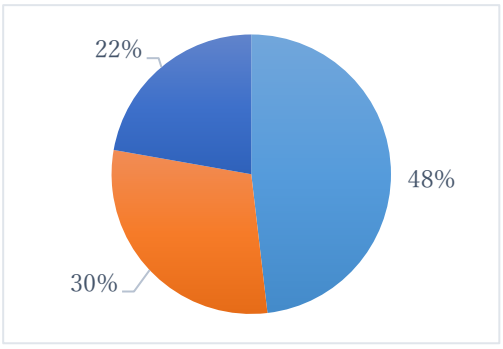
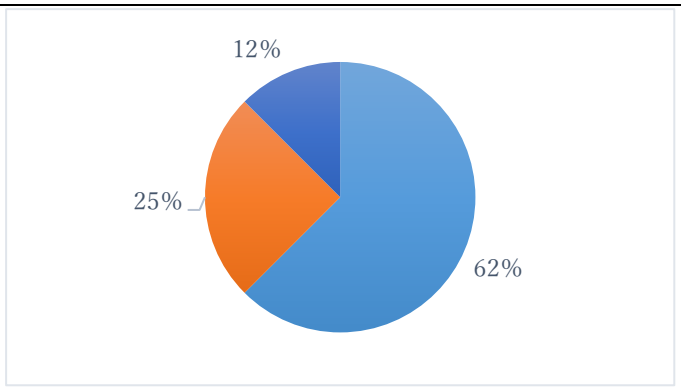
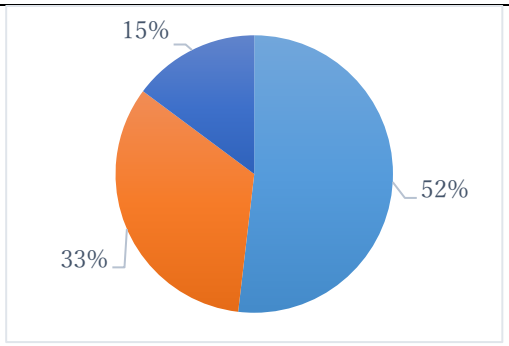
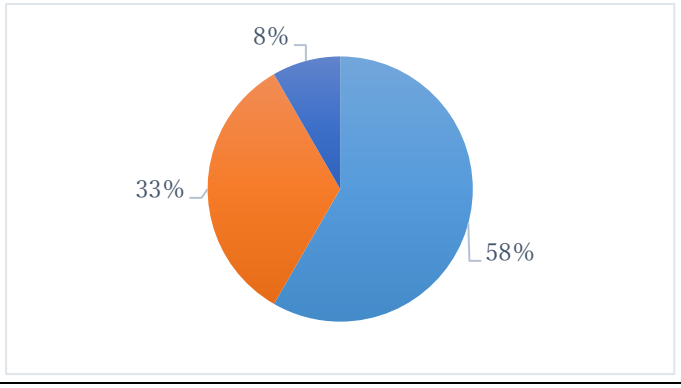
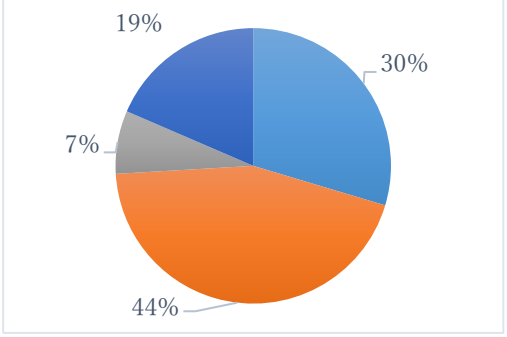
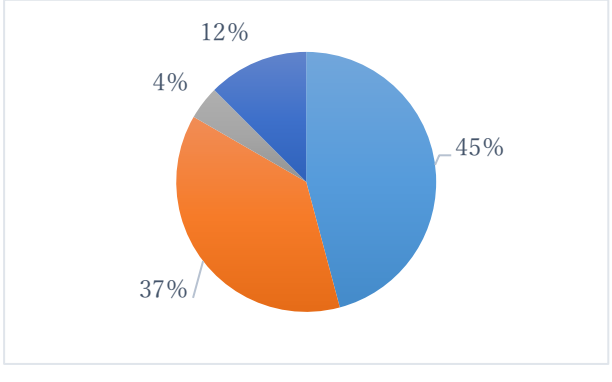
○健康・安全教育の充実に関する設問では、図書室の利用について「よく思う」「思う」と捉えた児童が６９％で６％減少しました。言語活動の充実を図るためにも、言葉や物語に対しての好奇心を高めるような読書体験を来年度も引き続き取り組んでいく必要があると考えます。また、放課の時には外で遊んでいますと捉えた児童は、昨年度より３％減少しています。感染症対策を図りながら、児童の体力向上のため外遊びを楽しめるようにする工夫が必要と考えます。

学校評価（教職員）のまとめについて

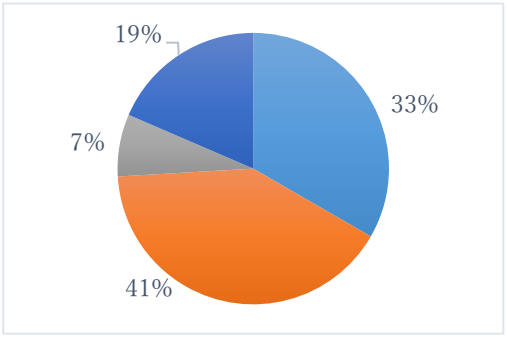
令和５年度の教育目標がどの程度達成されているかを振り返り、来年度の目標設定を具体的に取組に反映させるため、学校教育目標に基づいて教職員による学校評価（自己評価）に取り組みました。以下は、結果のまとめです。

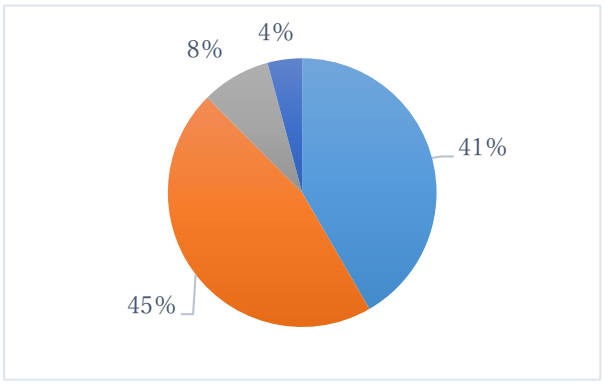
１　評価期間　　前期：令和５年１０月１０日（火）～１０月１８日（水）
　　後期：令和６年　１月１０日（水）～　１月１８日（木）
２　回答者総数　２４名（非担任を含む）
３　質問数　　２０問

凡例：よく思う　思う　あまり思わない　思わない　該当しない

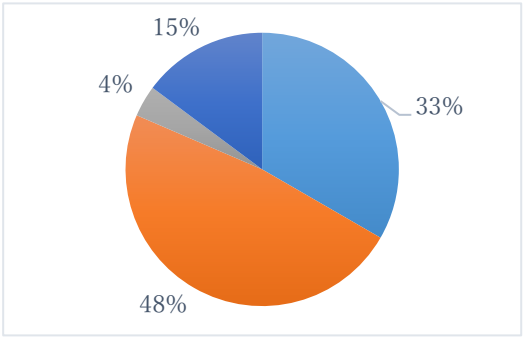
前　期	後　期
質問１　心のつながりを大切にした学級づくりに努めています。	
	
質問２　基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成に努めています。	
	
質問３　校内の指導体制づくりと家庭・地域・関係機関との連携に努めています。	
	

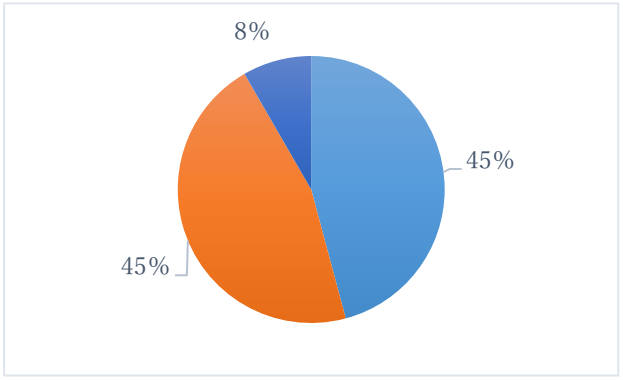
質問４　言語活動の充実に努めています。



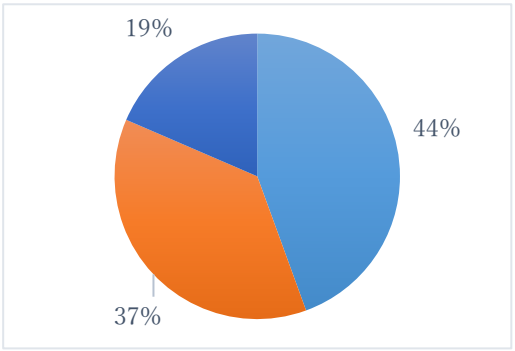


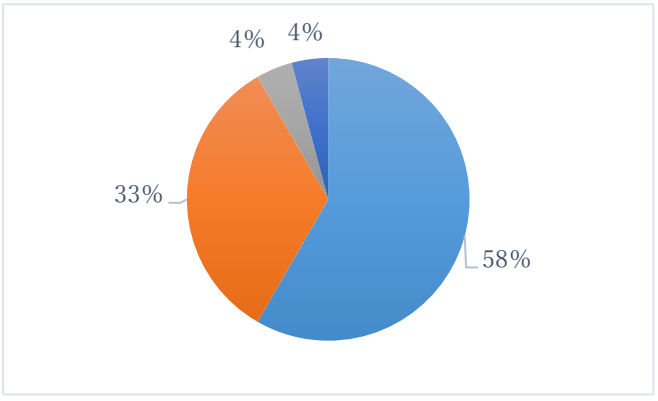
質問５　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めています。



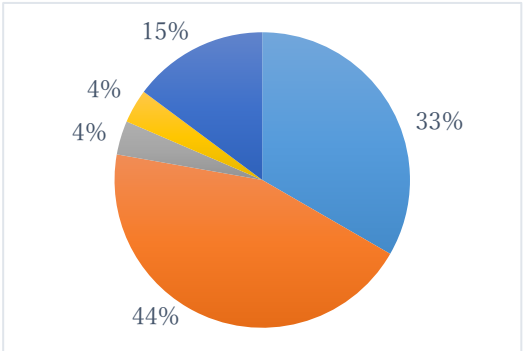


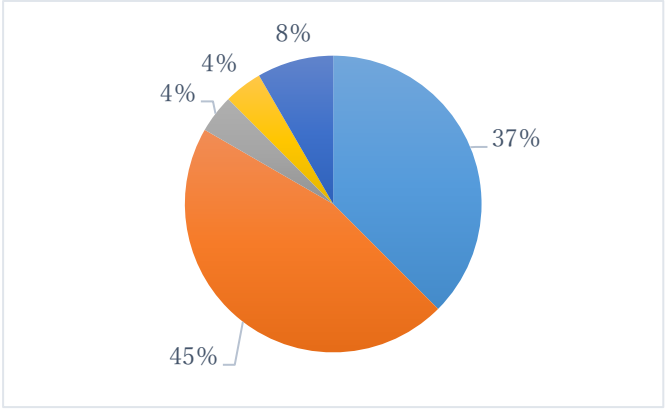
質問６　学習規律の徹底に努めています。



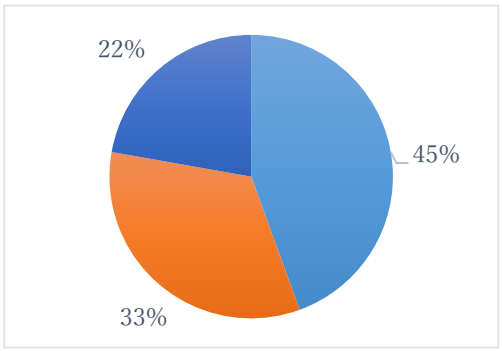


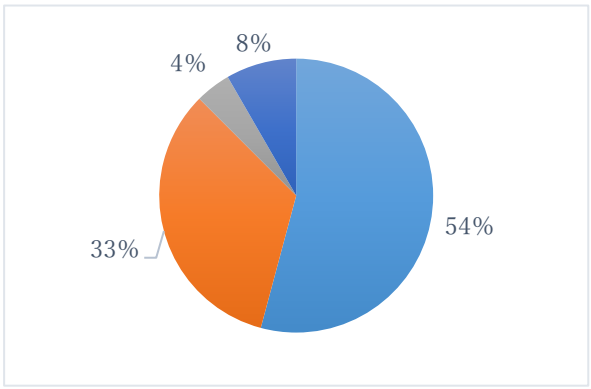
質問７　ICT の積極的な活用に努めています。



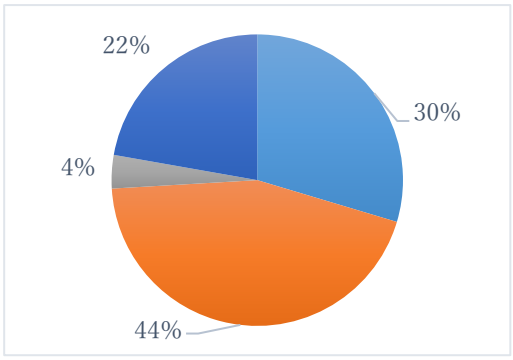


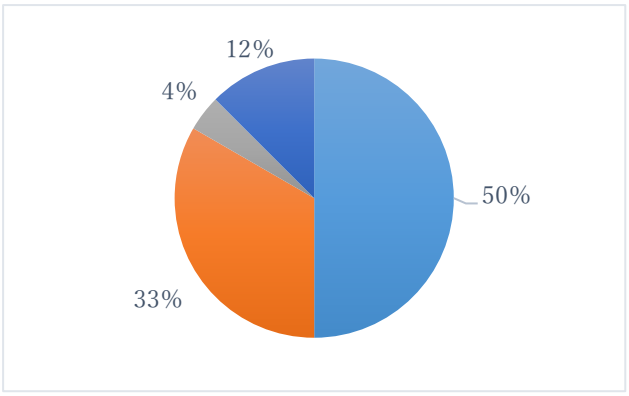
質問８　教育相談体制の充実に努めています。



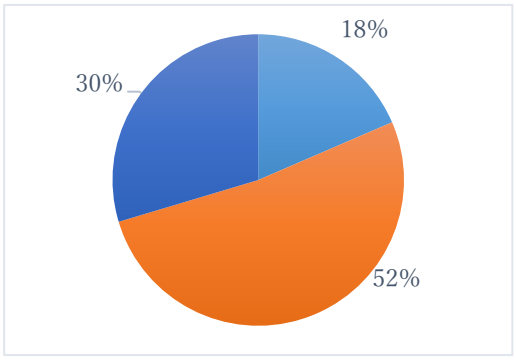


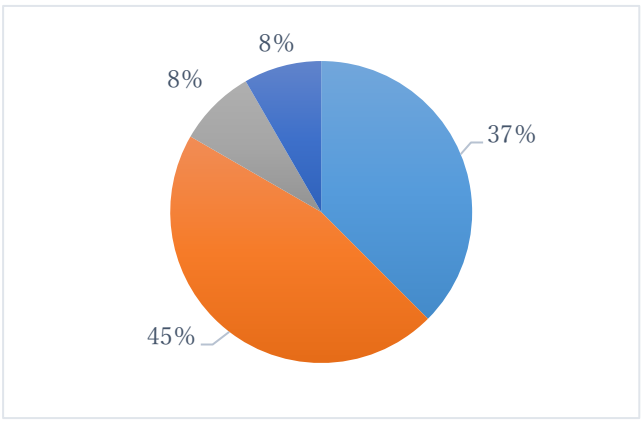
質問９　大人や異年齢の児童との交流の場の確保や多様な体験活動の充実に努めています。



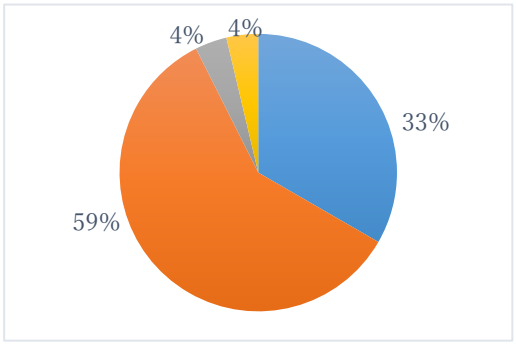


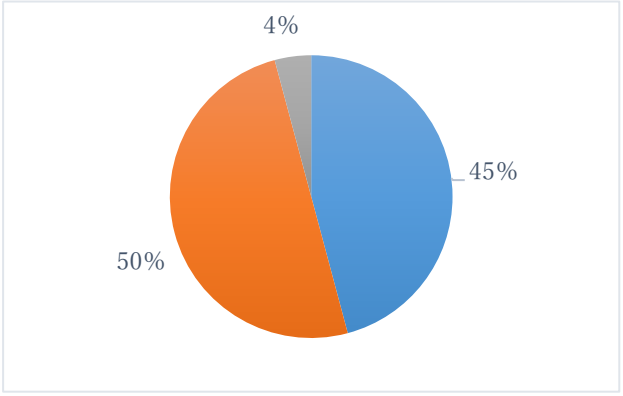
質問１０　道徳教育の充実に努めています。



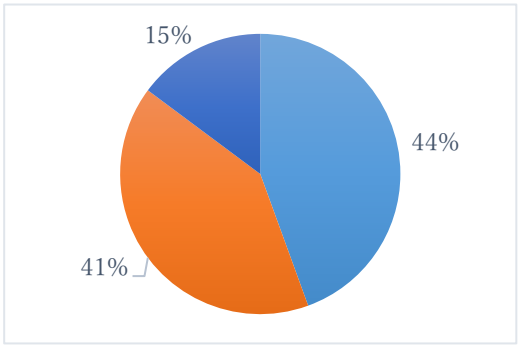


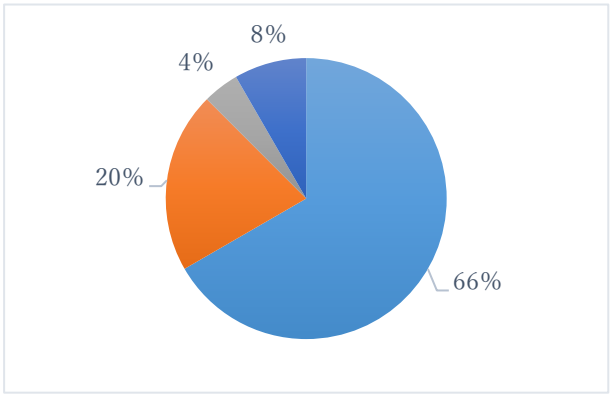
質問１１　さまざまな感染症対策の推進に努めています。



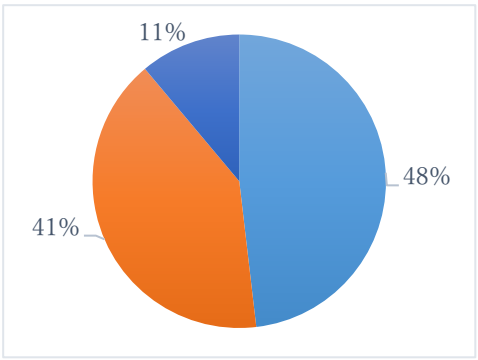


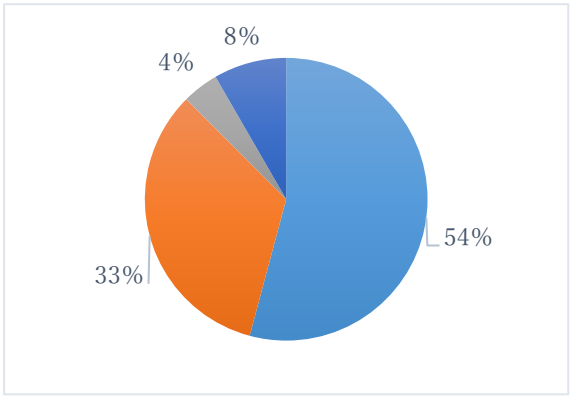
質問１２　食物アレルギーへの適切な対応に努めています。



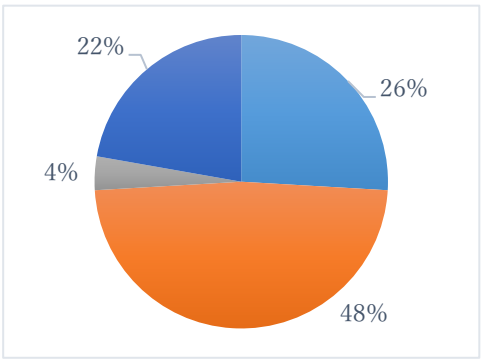


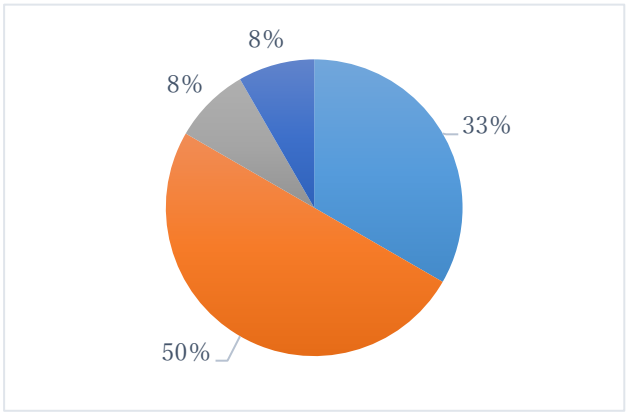
質問１３　計画的な避難訓練の実施に努めています。



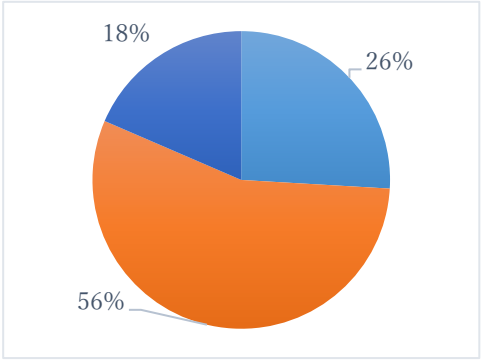


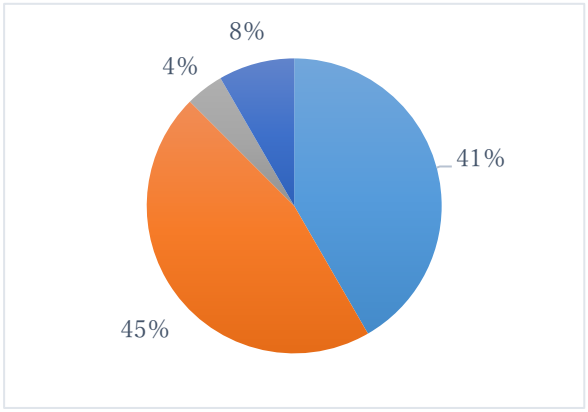
質問１４　児童一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高めようと努めています。



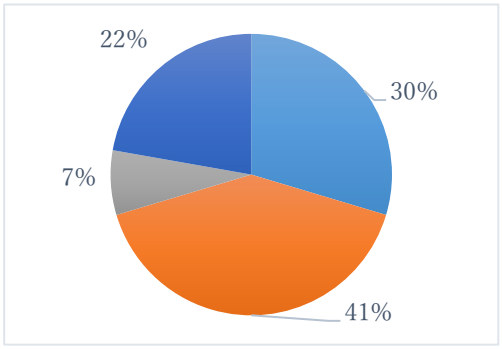


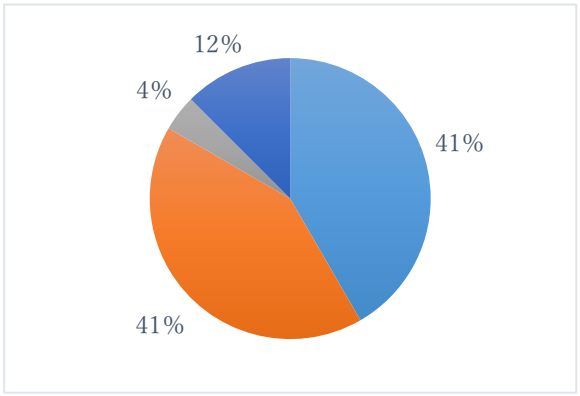
質問１５　児童一人一人の生活や学習上の困難を改善または克服するための適切な指導や必要な支援の実施に努めています。



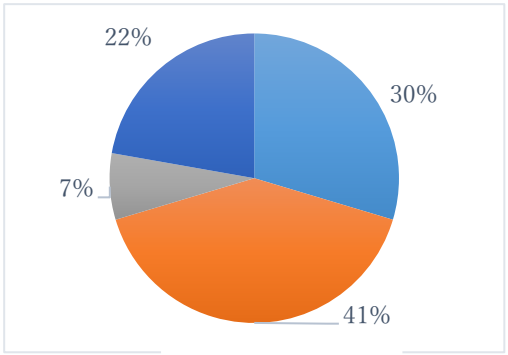


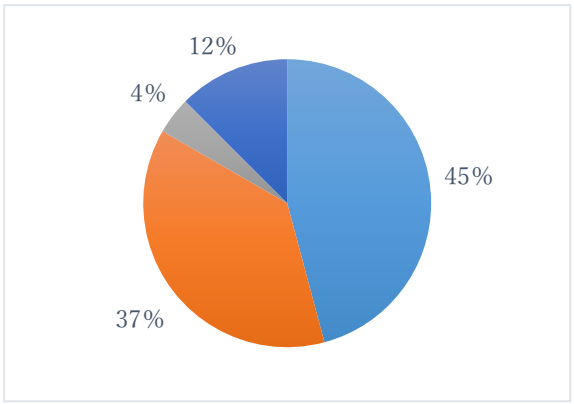
質問１６　授業参観、行事公開などの積極的な実施に努めています。



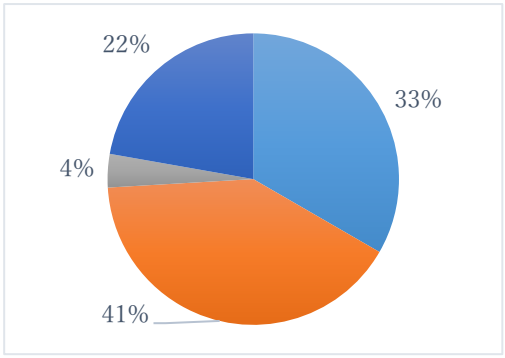


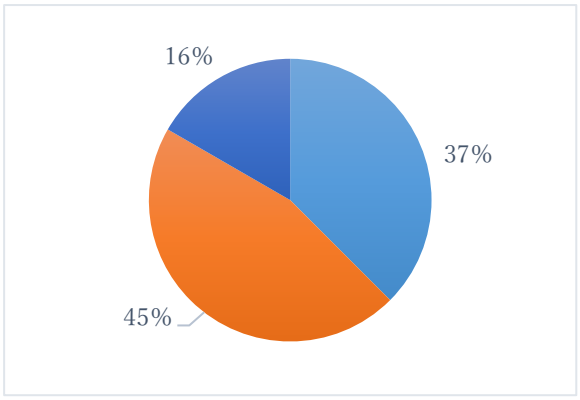
質問１７　学年だより等の HP の定期的な更新に努めています。



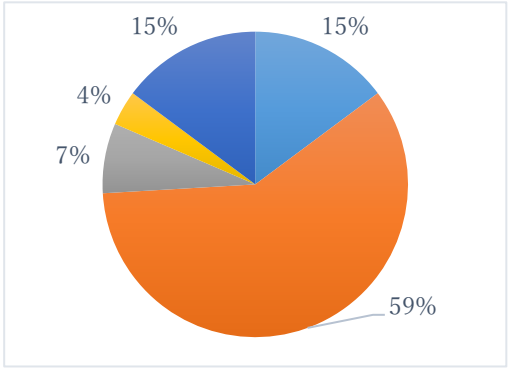


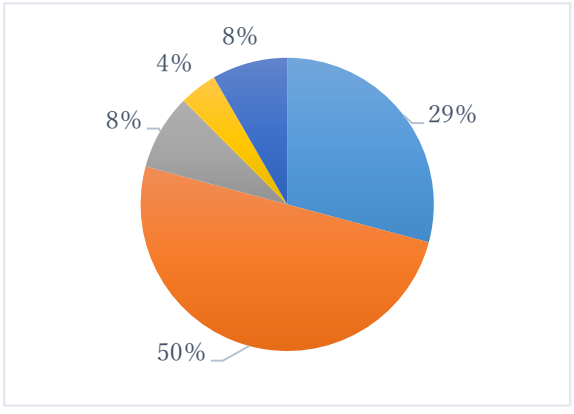
質問１８　PTA や地域コミュニティ等と連携・協力した教育活動に努めています。

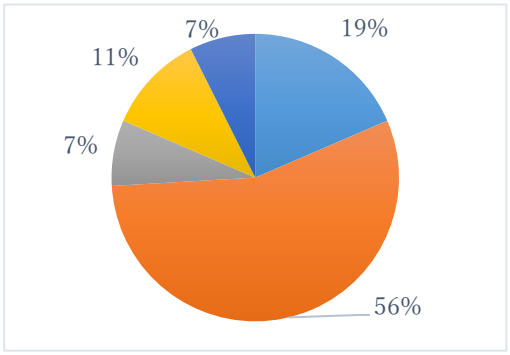
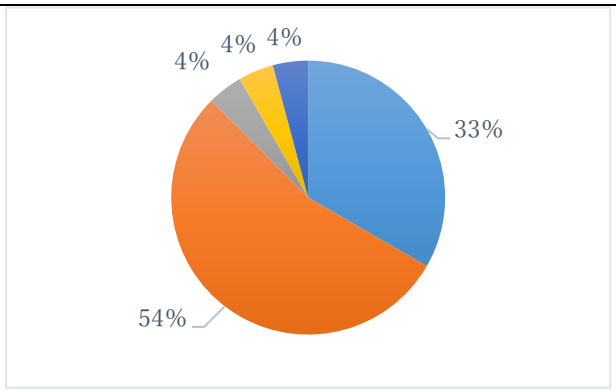




質問１９　多忙化解消に向けた取組の実施に努めています。





質問２０　生き生きと働ける職場の環境整備に努めています。	
	

【結果について】

○　生徒指導の充実に向けた取組のうち、「心のつながりを大切にした学級づくり」「基本的な生活習慣の育成と規範意識の醸成」については、ほぼ全教職員が「よく思う」「思う」と回答しており、しのはらタイムを活用した SST を１年間通して取り組むなど、生徒指導の充実に努めていることがわかる。

○　人間性豊かな児童の育成に向けた取組（質問８・１０）では、ほぼ全教職員が「よく思う」「思う」と回答している。教育相談体制や道徳教育の充実に力を入れるなど、心の教育に重点を置いて指導していることがわかる。異年齢児童との交流や豊かな体験活動については、感染症対策を講じながら活動を進めているといえる。

○　特別支援教育の充実に向けた取組（質問１４・１５）についても、８割以上の教職員が「よく思う」「思う」と回答している。状況に応じてケース会議を行うなど、児童一人一人に合った支援について、日常から意識して適切な実施に努めているといえる。

○　確かな学力に向けた取組では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「ＩＣＴの活用」を昨年度から継続して取り組んでおり、研究授業や研修会等で学んだ成果が表れている。言語活動についても、主体的な学びの基礎として話型を取り入れた話し合い活動を実践するなど、言語活動の充実に努めていることがわかる。

○　信頼される学校づくりでは、ほぼ全職員が「よく思う」「思う」と回答しており、対面とオンラインのそれぞれの良さを取り入れた新しい方法で学校行事を進めている。教育活動の一部に PTA や地域ボランティアの協力を得るなど、今後も開かれた学校づくりに努め、持続可能な教育活動について検討していく。

○　働き方改革の推進については、「生き生きと働ける職場の環境整備」が進んでいる一方で、「多忙化解消に向けた取組の実施」については、「よく思う」「思う」の割合が８割弱程度となっている。教職員の意識改革を図るなど、今後も多忙化解消に向けてより一層の改革を進めていく。